

観察会記録 10月1日 ……定山溪……

東 ちづ子

すっかり秋色に包まれた定山溪の観察会は、我が家にとっては、やっと叶った今年2回目の参加でした。

スタートの岩戸公園では、秋空が紅葉の始まった木々にふちどられ、さらに深い青に輝いて、私達をのぞいているかのようにでした。

まず一番に話題になったツルマサキは、名前を聞くのも初めてでした。公園内に生えていたハリギリは、「何だろう」と春からずっと思い続け、最近ようやく名と姿が一致したばかりでしたので、それと判ったときの満足感はまた格別。

ここで当日の観察会についてのお話をお聞きしたあと公園の周辺を散策。大木の陰にはシオデ、ミヤマニガウリ、オオウバユリ、ムカゴイラクサ、ヨブスマソウ、サラシナショウマなどが見られました。

岩戸観音の長い階段では、子供達がイタヤカエデの実を拾って喜んで飛ばしていました。ベニイタヤの果実との翼の角度の違いを教えていただきひとつ勉強。自然の生み出したものは、何故にこうも均整がとれて美しいのかと私はいつも感心してばかりです。

それから豊平川の谷に沿ってツリバナの垣を見ながら歩き始めました。二見つり橋の脇の岩に咲く小さな薄紫の花を見つけた方がいて、「どどこ」とひときわにぎやかに注目の的となったのはモイワツヤジソウでした。このつり橋から眺めるかっぱ淵の水と、赤・黄・緑でおおわれた岩肌と青空とのコントラストは、なかなか見応えのあるものでした。

途中、足元の深紅の落葉に「おやっ」と顔をあげるとハウチワカエデの紅葉が艶やかに空をおおっていました。黄から深紅へまだらに変っていくのがこの木の特徴だとのこと。その色が捨て難く思わず2~3枚拾ってノートにはさんだのですが、やはり山の中で周囲の木々と重なりあって見えるのが一番美しく脳裏にしっかり刻んでおくほかに手に入れる方法はなさそうです。、自然はなん

と素晴らしい芸術家だとまたまた感心し、幸せな気分です。足どりも軽くなります。

二見岩のあたりでは幽鑑でしかしらなかったダイモンツソウ、エゾノカラマツバ、ヒモカズラ、マルバノキンレイカなどをはじめて見ることができました。傍らでは、タカネノガリヤスだとかミヤマノガリヤスだとかの話題に花が咲いていましたが、難しそうでしたのでパスと決めて次へ進みます。シナノキはオオバポダイジュとは大きさも大分違い、今度からは自分で判別できそうです。

さらに川上へ歩いて、橋（憩い橋？）から降りた川原で昼食となりました。川原では牛沢先生よりアンザンガン、セキエイハンガン、ギョウカイガンなどについての興味深いお話もしていただき、勉強になりました。

帰りは一部違ったコースを辿って、かっぱ大王のそばで解散。天候にも恵まれてとても気持ちの良い観察会でした。

5年生の娘は、だいふ植物と友達になってきました。また、自ら「荷物持ち」と称する夫と息子も、それなりに秋の山歩きを満喫したようです。「たまにしか参加できない私達を快く仲間に入れてくださって本当にありがたいね」と話ながら苦小牧への帰途につきました。

手稲平和はぐれ観察会（9月3日）

村野紀雄

朝から雨の落ちてきそうな天気なので、この日に予定されていた植物友の会の観察がとりやめになった。

しかし、このことを知らずに、平和に集まった人たち4人で、ささやかな観察会を始めたのであります。

霊園から入ってすぐのツリフネソウのはなやかな花のむれ、川辺りのカワミドリ、シロネ、エゾトリカブト、山道のアメリカオニアザミなど、初秋の色を楽しんで、送電線架鉄柱の下で弁当を開く。雨の中の弁当、かっぱをかぶりながらの観察行も結構楽しい。

この日、一番よかったことは、普段このあたり

をフィールドとする牛沢さんの案内を受けられたこと。このあたり、一見、自然のままのようだけれど、人の入込み、スキー場や採石などで急速に変ぼうしつつあるという。ほんとに街に近く森と川と山に恵まれたこんないい観察場所があったなんて、それが急速に失われつつあるなんて知らなかったのであります。そして、きれいなせせらぎを見ながら、春や夏にまたこなければならぬいと話しあったのであります。

手稲宮城の沢

金 上 由 紀

九月の例会では、友の会始まって以来の事件がおこりました。三日の予定が当日雨で急速十日に変更されたのです。幾人かへの電話と、地下鉄琴似駅のバスターミナルに日野間さんがはりついて日延べの連絡をしたのですが、宮城の沢のゲート前に直接集まった連絡もれの人が四名一。

いつまで待っても皆がこないの、四名だけで観察会をされたそうです。雨もさ程ひどくは降らず充実したひとときだったとか。牛沢先生、村野さんと実力者が揃ったとはいえ、ここが並のサークルと植物友の会の違いではないでしょうか。

そんなこんなで九月十日は参加者16名といつもより少人数の例会となりましたが、北見から帰ってこられた加藤和子さんご夫妻がみえて、あの楽しいおしゃべりと笑い声で陽気な一日となりました。

宮城の沢は勾配のゆるやかな林道を沢が幾回もまいて、右、左の崖からはジワジワと水が湧き、のんびり気楽な散歩をしながら様々な植物を観察できるコースです。

あたりはもうすつかり秋で、花はタデぐらいでしたが、実は色々なものを観察できました。私のメモではノリウツギ、オオカメノキ、ツリバナ、サワツバ、アカソ、ウシタキソウ等とありますが、中でも加藤さん推薦のキツリフネの実はまるでアーモンドかクルミのような香ばさで、皆で手の平にはじかせて集めては何度も味見をしました。較べてみるとツリフネソウの実は少し青くさいようでした。



他にはスマレサイシンやヤブマメの実を原先生の解説でじっくり見ました。三つにはじけた莢に行儀よく並ぶスマレサイシンの種子。アイヌの人々の食料だったという地上と地下のヤブマメの実。

ヤマブドウやコクワの実があちこちにぶらぶらんと下っていて、この山も今年は大豊作です。「笈田さんにいうなよー。全部とられちゃうからなあー」と見つけるたびに日野間さんが皆に注意していましたが、それは無理というものです。笈田一子の地獄耳ならぬ(地獄耳)には誰もかないっありません。

マタタビもたくさんなっていました。これには笈田さん目もくれないので、加藤さんと私とでマタタビ酒をつけるべく山分けしました。マタタビ酒の薬用効果を調べてみると「神経痛、腰痛、リュウマチ、滋養強壯」とありました。加藤家と金上家、マタタビ酒で平成二年も元気にくらせそうです。

この日日野間さんは「僕は今日はしっかりやるんだぞ。」と宣言して、ソダからイネ科カヤツリグサ科まで丹念にメモしていました。私のメモは五十三で終わっています。日野間さんのリストはどんなのでしょうか。楽しみにしています。又湿原のでき方についても、地面に図をかくて丁寧に教えてくださいました。ありがとう。

とにかく、長くなって列の前へ後へ連絡係とび歩くのも含めて、日野間さん大活躍の一日でした。

山道に半分埋まっていた石英の結晶の大きな固りを拾ったこと。帰途アオバトを見に寄った張碓の崖になんとクマタカが飛んできて、雄姿をたっぷりと見せてくれたこと等々、私にとって最後まで幸運な秋の一日でした。